

学び合い高め合い意欲的に学ぶ児童の育成

～伝え合い交流する～

I 研究の具体的内容

1 「伝え合い交流する」ことをより充実させる授業づくり

(1) 研究授業及び研究会

第3学年 算数「小数」 授業者 小野 紀男 教諭  
助言者 峡東教育事務所 指導主事 柴田 幸也 先生

(2) 実践授業及び振り返り

第1学年 音楽「いろいろなおとをたのしもう」 授業者 鈴木 奈津美 教諭

第2学年 算数「九九を作ろう」 授業者 高田 加奈子 教諭

第4学年 算数「面積の求め方の工夫」 授業者 岩下 亜希子 教諭

第5学年 算数「面積の求め方を考えよう」 授業者 飯室 美華 教諭

第6学年 算数「順序よく整理して調べよう」 授業者 田邊 博幸 教諭

ひまわり学級 第5学年 算数「お面積の求め方を考えよう」  
授業者 野澤 明雄 教諭

2 意欲的に学ぶ学習集団づくり

(1) 学習規律の確立

- ・「学習のきまり」の作成
- ・学習規律に関するアンケートの実施と分析
- ・学習規律アンケートの結果を受け、全校朝会での児童への働きかけ

(2) Q-U 調査の分析と対策

- ・K-13法による分析と対策
- ・全職員による情報交換とそれに基づく指導内容の確認

3 学びの基盤となる学習環境づくり

(1) 家庭学習の習慣化のために

- ・自主学習の取り組みについてのアンケート実施

- ・自主学習掲示板による自主学習の紹介
- ・家庭学習強化週間などにおける、家庭学習の必要性などについて家庭への啓蒙
- ・自主学習ノートチャレンジ週間の実施と学習内容の紹介

## II まとめ（成果と課題）

### 1 授業づくりに関わって

日々の授業の中で「伝えあい交流する」手立てを考え、実践を行ってきた。また、研究授業や一人一実践においても「伝えあい交流する」ことに焦点を絞って行うことができた。

実際に「伝え合い交流する」場面では、それぞれが目的をはっきりさせて伝え合い交流するようにしていた。ペア活動、グループ活動などいろいろな学習形態で、目的に応じた活動を行うことができ、有効だった。

また、ホワイトボードを使ったり、ワークシートを使ったりしながら交流し、視覚的に理解を助けることができている、大変有効であった。

相手の意見に耳を傾け、でてきた意見を仲間分けしたり、相手の意図をくんだり、自分の意見との相違をかんじたりできるようになってきている。

### 2 学習集団づくりに関わって

Q-U アンケートを2回実施し、K-13 法による分析を行った。2回実施したことで、児童理解が進み、児童の変容や学級の様子を知ることができた。また、K-13法を行うことで、多くの人の目でQ-Uの結果を見て、全職員で、情報交換や具体的な対策などを確認することができた。それをその後の学校生活を送る中で実践し、児童に働きかけることができた。それにより、よりよい学習集団づくりを行うことができてよかった。

また「大和小学習のきまり」について2回のアンケートを児童に行い、児童の実態を把握してきた。また、児童にアンケートの結果を全校朝会で伝え、自分たちの実態を客観的に見つめられるようにした。まだ十分に定着していない点があるので、児童の自覚を促しながら学習規律を定着させていく必要がある。

### 3 学習環境づくりに関わって

家庭学習の習慣化のために、家庭への働きかを行った。家庭学習強化週間をとり、家庭学習の必要性についてお便りで知らせた。その上で、おおよそ2週間自主学習ノートチャレンジ週間を実施した。全校児童が毎日1ページ、自主学習ノートに取り組んだ。自主学習ノートに53人の全校児童が取り組んだことは成果だった。しかし、取り組み状況（内容や取り組み時間など）の個人差は大きい。また、保護者が積極的に関わってくれている家庭もあるが、まったく関わっていない家庭もあり、家庭の実態が様々なので、今後も働きかけをしていきたい。

## III 成果物

研究授業、実践授業の授業案（ワークシート等も含む）

（研究主任 岩下 亜希子）